

岩 企 号
平成20年10月15日

国土交通省道路局長 様

岩内町長 上 岡 雄



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付国道企第37号をもって依頼のありました、標記の件について、別紙のとおり岩内町の意見等を提出いたしますので、よろしくお願いいたします。

企画経済部企画産業課
企画・原子力発電所担当：手塚
TEL:0135:62:1011(内293)
Fax:0135-61-2006
E-mail:iwanai.kikaku@herb.ocn.ne.jp

北海道においては、住民の移動や物資の輸送の大半を自動車交通に依存していることから、道路は住民生活や経済・社会活動を支える最も重要な社会生活基盤である。

本町においてもこの状況は同様であり、本町の基幹産業である漁業・水産加工業の物流や札幌圏の通院・通学、更には緊急時の急患搬送など道路に依存した経済・社会活動となっております。

こうした中、国においては、新たな「道路の中期計画」の策定がなされますが、一方で「道路特定財源制度」が来年度より一般財源化することが閣議決定されました。地方にとってはこのことにより、今後、必要な道路整備や除排雪などの道路予算が本当に確保されるのかという危惧を持たざる得ないものであります。

岩内町としては、こうした状況下において道路行政のあり方について次のとおり要望させていただきます。

道路特定財源制度の一般財源化により、道路整備や維持補修については一定の予算枠での配分となりますが、予算配当順位が交通量や人口集中地域、渋滞解消など都市部優先の予算配分とならないよう留意願います。

地方における道路は、都市部と比べ交通量や利用度、渋滞度が劣るのはやむを得ないことで、道路に対する目的・必要性が根本に都市部と大きく異なるという点を考慮した行政措置をお願いします。

例えば、物流等の経済性の面では、北海道を国策として食料基地として位置付けるのであれば、水産物や農産物をどう鮮度を保ち市場に輸送することが重要であり、また、輸送コストを抑えるためにも効率的なコンテナ輸送が必要となってきます。こうした、国策を進める中でただ生産するだけではなく、生産者の所得を保障することが持続可能な農水産業につながるものであります。

また、生産者をはじめとする地域住民の方々が生産活動を保持するためにも、その根底に救急医療や通学、防災など安心安全な生活を営める環境を提供しなければなりません。

○現状

岩内町を中心とする岩宇地域は、人口の減少とともに高齢化が進み、道内でも高齢化率が著しく高い地域である。

この中で、岩内協会病院は、地域の中核病院として高度医療、小児医療、夜間救急、二次救急医療を担ってきましたが、臨床研究制度の実施などにより医師不足が深刻化しているところである。

こうした医師不足に伴い、夜間などの救急搬送が札幌市・小樽市への依存が強まり、搬送時間が長時間化する状況となっている。

岩宇地域は、北海道で唯一の原子力発電所である泊発電所が立地という特殊性があることから、原発事故等における避難道路の整備が必要となっている。

○課題

札幌市、小樽市への搬送件数が増加していることから、搬送時間のより短縮と、患者への負担軽減が求められている。

このためには、救急車内の患者への振動による影響等を少なくするための、高速で安定的な走行が必要となる。

こうしたことから、現道の国道5号線の整備は勿論、北海道横断自動車道の高速道路ネットワークの整備が課題である。

原子力発電所立地ということから、事故等における避難道路の整備が重要課題である。

特に、地域における地方道の整備は、財政的な理由から簡易舗装などとなり劣悪な状況となっている。

こうしたことから、交付金制度や補助制度を活用しながら町道の整備をしたいが町負担分の財源の確保が困難な状況が続いている。

道路は地方にとって医療・通学を含む生活環境インフラの役割は勿論、地域における水産物・農産物などの物流面において重要な役割を担っている。

今後のまちづくりを進める上では、札幌圏や関東・首都圏のアクセス整備と地域内の都市計画道路及び町道の整備の両面を総合的・効果的に進めながら、地域住民が安心安全な生活を営むことが出来る、道路行政の推進を目指すことが地域振興の大きなファクターである。

広域的交通アクセスについては、北海道横断自動車道（黒松内～余市間）の早期整備及び事業着手している余市～小樽間が早期に完成され、岩宇地域（岩内町、共和町、泊村、神恵内村）との交通ネットワークが構築されることが、地域産業の活性化に結びつくものである。

中でも、岩内町の基幹産業である水産業・水産加工業の目指すべき姿としては、物流の安定確保や販路拡大により生産者の所得向上であること、また、岩内港の後背地である工業団地への企業誘致活動や、海洋深層水の利用拡大においても産業活性化と道路行政の係わりが大きなものとなる。

また、都市計画道路及び町道については、安心安全なまちづくりを進める上で、地域住民の生活環境の向上及び交通安全・防災対策が高齢化社会において、まちづくりの大きな施策の柱となる。

特に、高齢化社会における歩道空間の確保は、冬期間を含め安心して通院や買物がまちの中で出来るようにするための重要な施策となる。

こうしたことから、歩道を含む道路整備の推進と除排雪等の維持管理を効率的に進めることが、高齢者だけではなく町民全てが利活用できる道路のユニバーサルデザインとなる。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

北海道岩内町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	①北海道横断自動車道（黒松内～小樽間）の早期整備	北海道の物流等の安定性確保や観光振興のため、北海道の大動脈を相互補完する極めて重要な陸上アクセスとして期待される。	
地域活力の向上	①国道２７６号「岩内共和道路」の早期完成	・北海道横断道自動車道との連動により札幌圏への新たな物流路線としての優位性が高まる。 ・救急医療や教育など生活路線として安心安全を営むのに必要不可欠である。 ・原子力防災避難路の確保としての役割を担う。	
水害等の災害に強い国土づくり等	①国道２２９号線の越波対策	２２９号線の内、都市計画道路の未整備区間(L=1,280m)は、歩道幅員が狭少であり、海岸沿いの護岸が老朽化し、越波の影響を受けている。 このことから、地域住民の安全確保と通学や通院など生活路線として安心安全を確保することが必要である。	

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

北海道岩内町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
	②停車場通（道道岩内洞爺線）の整備 ③高校前通りの整備 ④薄田通りの整備 ※ ②～④は関連路線	②～④路線は、市街地に位置し、小・中・高等学校への通学路や岩内協会病院への通院、及びニセコ町から岩内町を結ぶニセコパノ라마ラインとしての広域観光ルート、更には原子力防災避難路として大きな役割を担う幹線路線であるものの都市計画道路として未整備である。 これらの路線は、歩道幅員が狭少であり、特に冬期間の歩道確保は難しい状況である。また夏期間は、ニセコパノ라마ラインを利用する観光車輛により、交通量が増加している。 こうしたことから、通学児童生徒や通院患者の歩道空間を確保することにより、安心安全な道路行政を推進することが可能となる。	